



あきらめない放射線ホルミシス療法

～基礎編～

NPO法人「日本代替療法学協会」副理事長
根本 正男



ヒトは宇宙から生まれている

～宇宙創成から人類誕生まで1～

- 宇宙創成から約8.7億年後に最初の原子銀河が発生
- 約46億年前原子太陽が、系列の恒星3番目には地球が生まれた。
- 約40億年前に、衝突エネルギーで発生した放射性元素が核(コア)に留まった。
- 約38億年前から太陽などから降り注いだ宇宙放射線(現在の百倍以上)が海底に届き、生物が発生。



ヒトは宇宙から生まれている

～宇宙創成から人類誕生まで2～

- 約29億年前にはラン藻類が発生し酸素を生成。
- 約5.4億年前の化石より捕食動物が発見。
- 約5.2億年前には魚類が誕生。約4億年前に両生類が誕生し、陸上に進出。
- 約6500万年前に10数kmの隕石衝突で大型恐竜が絶滅。
- 太陽光線が届くと再び生物が増え始め、鼠のような動物から類人猿に、更に枝別れした一部が人類に進化した。



病気と闘ってきたヒトの歴史

～古代人は動物から食物・薬を学んだ～

- 古生代の人類は動物の動向から食物や薬物を見分けた。
- 石などを暖めて患部に当てる薬石(焼き石)療法などが治療の一部だった！
- 約5千年前のインドから発生した医療がヨーロッパから中国、そして世界中に広がった。
- 1520年ごろにはスイスの医学者パラケルススが「微量用法」を確立。



病気と闘ってきたヒトの歴史

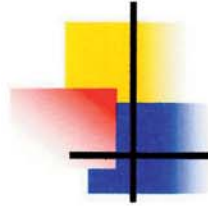
~いつのまにか放射線療法は日陰に~

- 1800年にはドイツ人の医師ハーネマンがホメオパシー(同種療法)を発表。
- 1880年にはパストゥールが狂犬病接種を、82年・結核菌、83年にはコレラ菌をコッホが発見した。
- 96年にはリンカン博士により放射線による治療研究が発表。
- 1900年代になるとドイツ・グライスバルト大学のユーゴシュルツ博士が「ホルミシス(刺激する)」用語を医学会に発表。
- 1906年・18年にも放射線治療の論文が発表されるが化学兵器としての放射線研究が活発化、
- 1929年にフレミングがペニシリンを発見して西洋医学が飛躍的進歩を遂げ、医療・平和利用とも放射線が日陰へ追いやられた。

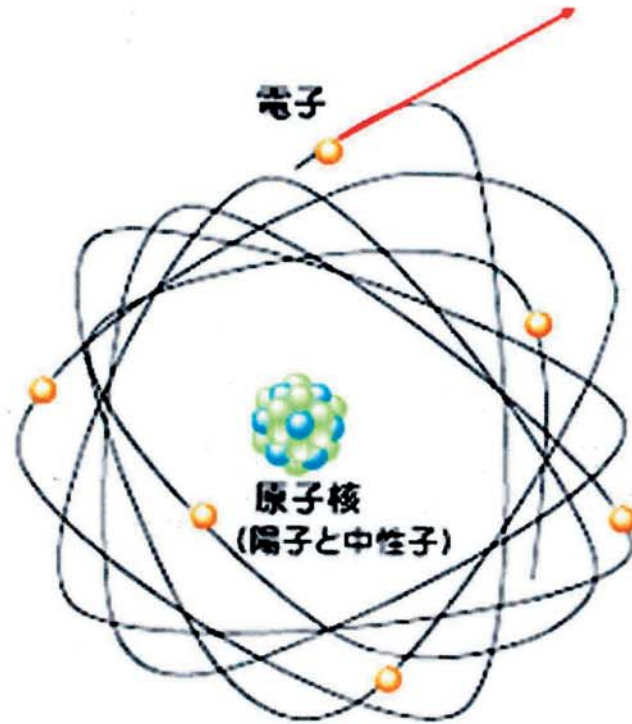
放射線の歴史

～～

- 1800年代に物理学者のプリュッカーが考案した真空ポンプにドイツの機械技師ガイスラーが気体放電を用いて放射線の先鞭をつける。
- 1864年、イギリスのマクスウェルが電磁波を発見・発見。
- 1876年、ゴールドシュタインが陰極線を発見・発見。
- 1888年、ドイツのヘルツが電磁波の送・受信を行い、赤外線・紫外線・可視光線を証明、写真乾板の感光などを初めて放射線と認定した。
- 1895年、レントゲンがX光線の発見を世界に発表、第1回ノーベル賞を受賞。
- これを知った仏国のアンリ・ベクレルは放射線の種類は他にもあると、ウラン鉱石を使った研究でX線以外の放射線を証明した。

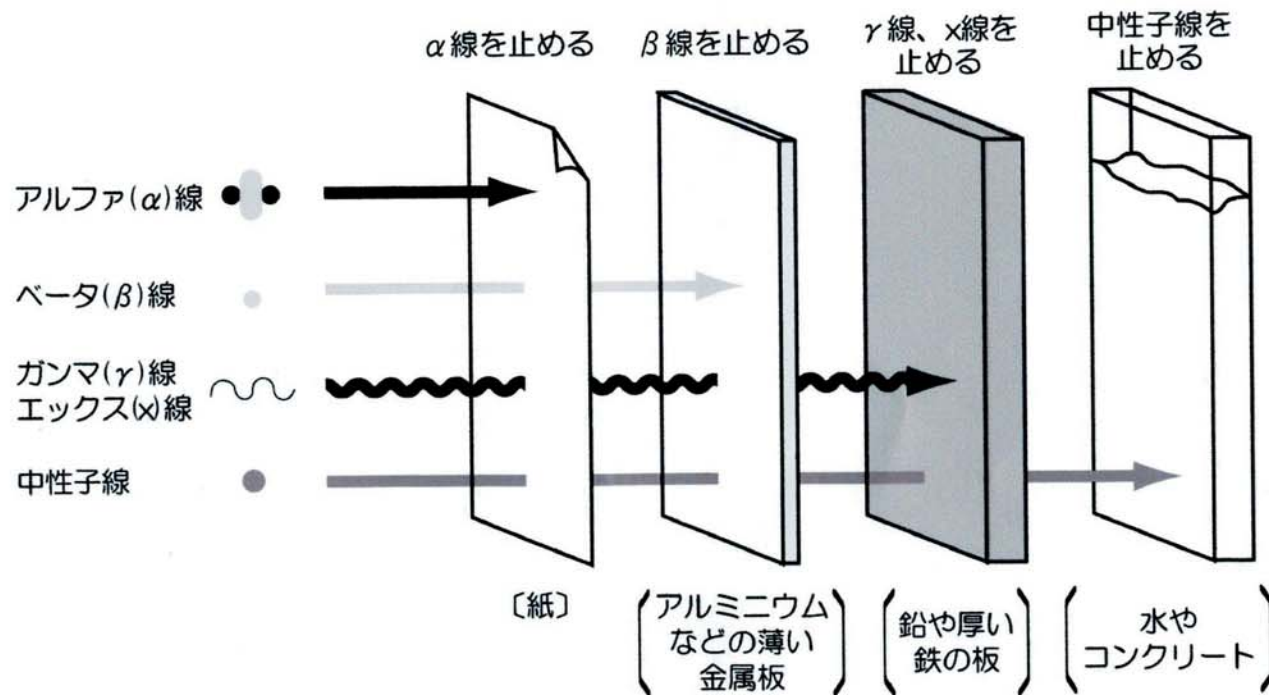


- 1899年、スウェーデン人のステインベックがX線を使い放射線治療を世界で初めて実施。
- 1902年、ウィーンホルツクネヒトは、治療を改善するため測定器を考案・改良しクロラジオメーターと命名、更にウラン線を発見して翌年にノーベル賞受賞。
- 1902年にラジウムの分離を発見したピエールとマリーのキュリー夫妻も同時受賞。放射線は世界平和に貢献した。
- 1914年、ラザフォードはベクレル線の研究でウラン・ラジウム・トリウムなどを多数発見、その全ての能力を放射能とよび更に半減期の測定も明確にした。
- 1918年、ドイツではユダヤ系科学者により化学兵器としての開発がすすみ多数の科学者がアメリカに亡命し、原子爆弾を完成させる。





《図一放射線の種類と透過力》





ヒトは病気では死なない！

～では、何で死ぬのか？～

- 生まれたときはストレスはない。
- 1歳頃から感じるストレスは約57年間続く。
- 中年を過ぎると大腸・肺・乳腺・胃などの部位に悪性化が起こりやすくなる。
- 20～39歳までの死亡は1000人中19人で、そのうちの7名は自殺であり58歳まで上位を占める。9年間連続で3万人を超える自殺者が確認。
- 同40～59歳は95人死亡のうち39人がガンによる。



ヒトは病気では死なない！

～では、何で死ぬのか？～

- 遺伝性と言われるがん細胞は体内で毎日発生。
- 免疫力が弱まっている時やストレスなどで顆粒過多になると、更に増殖する
- 食生活や生活習慣(日常行動ならびに転地療養を含む)を変えることにより改善される場合があります。
- 発症した場合は信頼のおける医師の治療か、複数の意見(セカンド～サードオピニオン)を考慮しよう。
- 治療における副作用、余命宣告に対する延命期間の有無、などを確認後に治療方法の選択、治療効果の確認および記録とあきらめない治療を追求。



参考書籍一覽

■	初版本	著者	出版社	題名
■	1982年	T.D.ラッキー	ソフトサイエンス	放射線ホルミシス
■	1990年	堀 秀道	草思社	楽しい鉱物学
■	1992年	T.D.ラッキー	ソフトサイエンス	放射線ホルミシス・2 ヒトおよび動物のデータを中心に
■	2000年	横山良哲	風媒社	きらめき鉱物・化石ガイド
■	2001年	館野之雄	岩波書店	放射線と健康
■	2002年	八藤 眞	メタモル出版	塩が病気をつくる！塩が病気を治す！
■	2003年	安保 徹	講談社	免疫革命
■	2004年	八藤 眞	メタル出版	新マイナスイオン健康法
■		藤野 薫	せせらぎ出版	大自然の仕組み放射線ホルミシスの話
■		高原喜八郎	エース出版	玉川温泉の北投石 驚異的治癒力の記録
■		近藤 誠	文藝春秋	がん治療総決算
■		田中孝一	二見書房	私たちは玉川温泉で難病を治した
■	2005年	N.D.タイソン	早川書房	宇宙起源をめぐる140億年の旅 D.ゴールドスミス 共著
■		江川芳信	現代書林	放射線ホルミシスが体にいい
■		富永裕久	ナツメ社	元素
■		近藤紘子	二見書房	ヒロシマ、60年の記憶
■		S.ウォーカー	中央精版印刷	カウントダウン・ヒロシマ
■		山岡聖典	新風書房	環境と健康を科学する 放射線の不思議な生体作用
■	2007年	安保 徹	実業之日本社	安保徹の病気にならない三大免疫力